

各 関 係 機 関 御 中

石川県農林総合研究センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察情報について

平成 3 1 年度病害虫発生予報第 1 号を下記のとおり送付します。

連絡先 石川県農林総合研究センター
農業試験場 総合研究部 病害虫防除室
電話 076-257-6972 (直通)
FAX 076-257-9140
E-mail kisk0301@pref.ishikawa.lg.jp

病害虫発生予報第 1 号

(予報期間：4月下旬～5月中旬)

予報内容

水 稲

イネミズゾウムシの発生は並と予想される。箱施薬していない圃場では、1株当たりの成虫数が0.3頭以上認められたら直ちに防除する。

麦 類

大麦赤かび病の発生はやや少と予想される。出穂前後の降雨は発生を助長するので、出穂期の3～5日後とその7～10日後の2回防除を実施する。

大 豆

ネキリムシ類の発生はやや多と予想される。は種時の防除を徹底する。

果 樹

なし黒星病の発生はやや少と予想される。発生初期の防除を徹底する。

かき炭疽病の発生はやや多と予想される。孢子飛散は4月下旬からと予想される。発病が新梢に認められた場合は直ちに防除する。

ハダニ類の発生はやや多と予想される。抵抗性害虫の発生を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

野 菜

ネキリムシ類の発生はやや多と予想される。は種時又は定植時の防除を徹底する。

アブラムシ類、コナガの発生はやや多と予想される。早期発見に努め、発生を認めた場合は防除を実施する。

病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。
また、周辺作物への飛散防止に留意する。

1か月予報（4月11日付け 新潟地方气象台）

予報期間：4月13日～5月12日

[確率予報]

気 温	低 い	20%	平年並	50%	高 い	30%
降 水 量	少 ない	30%	平年並	40%	多 い	30%
日照時間	少 ない	30%	平年並	40%	多 い	30%

[概要]

1か月予報

向こう1か月の天候は、低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

・ 4月13日（土）～4月19日（金）

低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

・ 4月20日（土）～4月26日（金）

低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

・ 4月28日（土）～5月11日（金）

低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

注 1) 発生量は平年比。
2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(-) は不適要因、
(±) は好適・不適に関与しない要因を示す

1 水稻の病害虫

イネミズゾウムシ

発生時期 本田侵入盛期は5月4半旬以降
発生量 並
予報の根拠 (1) 前年の発生は並 (±)
(2) 気温は平年並 (±)
防除上の注意事項 (1) 侵入時期の早期化が予想されるため、箱施薬していない圃場では田植え後のほ場巡回に努め、1株当たりの成虫数が0.3頭以上認められたら直ちに防除する。

イネドロオイムシ

発生時期 成虫の本田侵入盛期は5月下旬、幼虫発生盛期は6月中旬
発生量 やや少
予報の根拠 (1) 前年の発生はやや少 (-)
(2) 気温は平年並 (±)
防除上の注意事項 (1) 箱施薬の実施に努める。
(2) 箱施薬していない圃場では、1株当たり1卵塊以上認められる場合には、直ちに防除する。

イネヒメハモグリバエ

発生時期 5月下旬以降
発生量 並
予報の根拠 (1) 気温は平年並 (±)
防除上の注意事項 (1) 発生初期の防除を徹底する。
(2) 深水管理は発生を助長するので留意する。

2 麦類の病害虫

大麦赤かび病

発生時期 4月下旬以降
発生量 やや少
予報の根拠 (1) 前年の発生は少 (-)
(2) 気温は平年並 (±)
(3) 降水量は平年並 (±)
防除上の注意事項 (1) 高温時の降雨は発生を助長する。

大麦うどんこ病

発生時期 連続発生
発生量 やや少
予報の根拠 (1) 現在の発生は少 (-)
(2) 気温は平年並 (±)
(3) 降水量は平年並 (±)
防除上の注意事項 (1) 急進展するようであれば防除を実施する。

3 大豆の病害虫

ネキリムシ類（カブラヤガ・タマナヤガ）

発生時期	増加期は5月下旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) タマナヤガのフェロモントラップ誘殺数はやや多（+） (2) 気温は平年並（±）
防除上の注意事項	(1) は種時の防除を徹底する。

タネバエ

発生時期	5月下旬以降
発生量	並
予報の根拠	(1) 気温は平年並（±） (2) 降水量はほぼ平年並（±）
防除上の注意事項	(1) は種時の防除を徹底する。 (2) 有機物を施用した圃場は発生が多くなるので注意する。

4 果樹の病害虫

なし黒星病

発生時期	5月中旬以降
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 前年の発生はやや少（-） (2) 気温は平年並（±） (3) 降水量は平年並（±）
防除上の注意事項	(1) 発生初期の防除を徹底する。

なし黒斑病

発生時期	5月中旬以降
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 前年の発生はやや少（-） (2) 気温は平年並（±） (3) 降水量は平年並（±）
防除上の注意事項	(1) 袋かけ前の防除を徹底する。

ぶどう灰色かび病

発生時期	4月下旬以降
発生量	並
予報の根拠	(1) 気温は平年並（±） (2) 降水量は平年並（±）
防除上の注意事項	(1) 早期発見に努め、発生を認めた場合は防除を実施する。

かき炭疽病	
発生時期	新梢の発病は5月上旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 前年の発生は多 (+) (2) 気温は平年並 (±) (3) 降水量は平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 胞子飛散は4月下旬からと予想される。発病が新梢に認められた場合は直ちに防除する。

ハダニ類	
発生時期	増加期は4月中旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 前年の発生はやや多 (+) (2) 気温は平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 防除は発生源となる下草を刈り取った後に実施する。 (2) 抵抗性害虫の発生を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

5 野菜・花きの病害虫

トマト灰色かび病	
発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (-) (2) 気温は平年並 (±) (3) 降水量は平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 発生初期の防除を徹底する。 (2) 施設内の換気および適正温度の管理に努める。

トマト葉かび病	
発生時期	増加期は5月下旬以降
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (-) (2) 気温は平年並 (±) (3) 降水量は平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 施設内の換気および適正温度の管理に努める。 (2) 肥料切れの圃場に発生しやすいので、適正な施肥を行う。

すいか褐斑細菌病	
発生時期	増加期は5月下旬以降
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 育苗期の発生は少 (-) (2) 気温は平年並 (±) (3) 降水量は平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) トンネル除去時の防除を徹底する。 (2) 圃場排水に努める。

きゅうり灰色かび病

発生時期	連続発生
発生量	少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は平年並 (±) (3) 降水量は平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 発生初期の防除を徹底する。 (2) 施設内の換気および適正温度の管理に努める。

ねぎさび病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は平年並 (±) (2) 降水量は平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 早期発見に努め、発生を認めた場合は防除を実施する。

きく白さび病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は平年並 (±) (3) 降水量は平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 定植直後の防除を徹底する。

アブラムシ類 (野菜・花き全般)

発生時期	急増期は4月下旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温は平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 早期発見に努め、発生を認めた場合は防除を実施する。

ネキリムシ類 (カブラヤガ・タマナヤガ)

発生時期	増加期は5月下旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) タマナヤガのフェロモントラップ誘殺数は多 (+) (2) 気温は平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) は種時又は定植時の防除を徹底する。 (2) ほ場およびほ場周辺の除草をこまめに行う。

コナガ (アブラナ科野菜)

発生時期	4月下旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在、一部で発生が確認されている (+) (2) 気温は平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 早期発見に努め、発生を認めた場合は防除を実施する。